

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
まちと自然の調和 平地林や田んぼと整備された住宅や道路が共存 し、調和の取れたまち並みが広がり、地区で育った人が定住し、子育て世代を中心に人気のエリアになっています。保育園での農業体験や市街地内の小さな農地が活用され、住民は日常的に農業を楽しんでいます。	・農業体験施設を設けて、農業に触れる機会をつくりたい ・自然体験や農業体験、催事体験などのサポート →寺子屋でやってみたい。	・空き家を活用してお茶ができるスペースをつくる		・農村との体験交流や情報交換ができる といい	
こどもまんなかコミュニティ 公園のような環境でこどもたちの「思い切り楽しい」が実現でき、まちの活性化につながっています。地域でこどもの挑戦を支え、やってみたいを叶える居場所や活動の場が充実し、住民の生きがいも創出しています。	・外国籍をもつ人びととの交流。属性が違う者同士でも、お互いに知り合うことで理解し合えていくはず。	・中高生の居場所づくり（学童保育の対象ではない青少年を見る） ・学校で教えてくれないことを体験できる機会を公民館で催す	・大谷地区に所属しているという意識が若い人たちの中ではない ・子どもが地域社会に参画していける取り組みやイベント	・赤ちゃんから高齢者までのたてのつながり、各地域のよこのつながりを強化したい	
情報共有の取組みと波及効果 多言語対応の回覧板や連絡アプリが活用され、住民を結ぶ情報共有の仕組みが整い、自然とコミュニケーションが生まれることで、住民同士の顔がわかり、生活マナーが向上しています。	・高齢者のサポート。民生委員や自治会ではなく、もっと身近でもっと気軽に頼れる近所の人 ・子どもと高齢者相互の見守り。お互いに助け合い→多世代が集まって一緒に過ごせる場（コミュニティスペース）づくり ・他自治会で意見交換。悩み事など小さなことでも話し合える機会を	・日常的なつながりをどう作るかを考えていきたい ・自治会や育成会以外の情報共有手段→既存の会に入っていない人との共有手段を確保したい。	・外国籍の人が多い地区なので子どもと両親両方の文化の理解が必要 ・外国籍の世帯や、マンション・集合住宅の世帯の自治会加入 ・自治会活動に参加しやすい仕組みづくり ・回覧板や LINE など高齢者から若い人まで情報が取得しやすいよう→自治会活動の簡素化も		

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
公園のような空間 中久喜城跡は良好に保全され、豊かな自然環境から生物多様性を学べる場になっています。血方神社の太々神楽など神社や祭りが伝統を継承し、世代をつなぐ架け橋となっています。また、城東公園は再整備され、歴史や文化に触れられる場となり、小山東出張所跡地は複合施設としてにぎわいを生んでいます。歩いて移動できる工夫が施され、まち全体が公園のような空間になっています。	・地域の盆踊りを復活させたい、よさこいをやっている ・自治会内のイベントを継続していきたい ・地区にブランド公園の設置→公園を作って集まれる場を作りたい ・伝統芸能の祭りに興味を持ってもらうようなインパクトのあるイベントを開催したい ・神楽を身近に感じてほしい。ポスターやSNS で情報を発信する ・オーガニックマルシェや県庁のイベントなど、地区を飛び出してイベントで神楽を披露している。呼んでもらえればどんどん行きたい。神楽を広めたい	・公民館などでのイベント ・伝統芸能の承継 ・地域を巡るオリエンテーリング ・イベントでつながりをつくっていた ・昔、大谷地区全体でやっていた運動会の復活が現実的に難しいため、運動会に代わるイベントを開催したい ・地域・既存の公的スペースを交流スポットにしたい。→付き合いを持つことが地域の維持、発展につながる ・新しい人でも参加しやすいイベントを開催 ・多様な人が一緒に過ごせるコミュニケーションの場づくり ・子育て広場や高齢者の集まりなど地域の集まりに神楽のお祭りを知ってもらいたい ・あいとぴあ（公民館まつりなど）で神楽を披露してほしい。 ・中久喜城整備を自治会で行っているが、地域の人にも参加してもらいたい ・大谷はソフト：無形民俗文化財の田間血方神社の太々神楽と、ハード：国指定史跡の中久喜城があり地域の誇り ・自治会のイベントに若い人の参加が少なく、育成会を介して来てくれるが卒業したら参加してもらえない ・キッチンカーやワークショップを開くと子どもが参加してくれるかも	・大谷地区全体としてできる競技を探したい ・平成通りを交通止めにしてイベントを開催 ・あいとぴあまつり ・地域が広いので、北部にコミュニティ施設（アイトピア別館）ができると活動が広がる ・参加したくなるイベントで、自治会活動を刷新していくことの必要性 ・中久喜城の整備が終了したら、さくらまつりやコンサート、ビール祭りなどのイベントが開催されればいい ・市内の神楽の団体と交流したい ・地域のため池を子どもから高齢者までが集える親水公園にしたい ・	・大谷地区全体のおまつりの実施。 ・地域活動の計画、実績の共有化→やっていることの見える化をすることで、参加者を募る。	
工業団地と住民、緑との調和 工業団地と地域が連携したイベントで相互理解が深まり、地域が盛り上がりを見せています。小山工業高等専門学校や関東職業能力開発大学校が技術者を育て、地元企業と共に先端技術の開発に力を入れています。工業団地の緑地帯が拡充するなど田園環境都市の実現に向けて、環境づくりに取り組んでいます。			・工業団地と企業との連携 →レゾナックはすごく協力的。個人、地域、行政もいいが、企業との共創もすごく大切。	・大学や教育機関との連携、ものづくり、子育て	

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
円滑な移動を実現 公共交通を使いこなすモデル地区であり、住民の発想を基に新しい移動手段の開発が進んでいます。高齢者の免許返納が進み、事故も少なく、安全安心な移動環境が地域の魅力となっています。			・ 地区内バス路線の見直し、南部との接続性 ・ おーバスが市民病院まで直接行くようにしたい ・ あいとびあ前の通学路に歩道がなく危ないので両側歩道を確保してほしい		
安全で安心な地域 住民の声を可視化するアプリで課題が共有され、地域全体で解決に取り組むとともに、街灯や防犯カメラの整備が進み、安全性と住みやすさが評判を呼び、移住者が増加しています。地元に住み続ける人が多く、子育て世代の定着も進み、世代を超えた地域づくりが実現しています。	・ 移住してくる人が多い。自治会に入ってもらい顔の見える関係に	・ 連絡網、防災マップの整備 ・ 地域コミュニティで地域の困りごとが解決できるような関係をつくりたい ・	・ 子育てについて不案になるため、情報発信は多いが安心のための取組みや発信が少ない		
そのほか	・ 若くていいねと言ってはいけない ・ パソコンの学習会の実施（高齢者向け） ・ 自治会の人とつながる取組み（ゴルフに参加など） ・ 自分が汗をかかなきゃなと思ってる ・ インドア・アウトドアのサークル紹介・発信→人それぞれに合った情報発信をしたい。 ・ すでに地域活動をしている人が多い ・ 大谷南部など他の地域のイベントに参加して交流を深める	・ 地域サロン「じゃあまたね」での活動 ・ 地域の子どもが大人にゲームを教える ・ オレンジカフェ（麻雀） ・ 自治会の大きさにムラがあり解消していきたい ・ 学校と自治会 世代間が分かれなように連携 ・ 地域内の学校間連携行事	・ 鉢形での里山の管理 ・ 高齢者世帯の実態の把握 ・ 縦割りではなく、横のつながりを持てるような課があってほしい。→福祉なら福祉のみになっている。すべてはつながっているのだから。	・ 他地区との交流 ・ 大谷の小学校では社会科見学でガイドツアーを行っている。他の地区の人もぜひ来てほしい ・ 交流は、各地区の歴史、文化を比べ合うことから始められるのではないか。 ・ 地域内の学校間連携行事」の発展形として、地区間の学校連携行事ないしは地域の大人も加わったコミュニティ祭を地区内の小学校で、各団体が協力し合い合同で開催したい	